

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：82620

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K18216

研究課題名（和文）イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究

研究課題名（英文）Research on the planning indicators for preserving Historic Urban Landscape in Iran

研究代表者

山田 大樹（YAMADA, HIROKI）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・客員研究員

研究者番号：20727648

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、主要研究対象をイランの古都エスファハーンの世界遺産マスジェド・ジャーメの周辺地区の再興計画に定め、現地機関との協力を得て計画実施の背景を整理した上で、世界文化遺産としての「真正性」が十分に担保されなかったこと、「住民意向」が反映されずに計画が進んでいることを明らかにした。現地調査においては、計画対象街区内の店主へのインタビュー調査を実施し、計画実施側（行政）と使用者である店主との間での計画に対する評価の差を明らかにした。さらに、計画実施前後における店主の周辺環境への評価の変化を調査し、住民意向を取り入れることにより再興計画の改善が可能であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年日本からのみならず、海外研究者による調査が進んでいないイランにおいて、日本人研究者が現地機関の協力を得つつ、広くその実態を明らかにできたことは大きな意義がある。住民へのインタビュー調査に基づいた研究は、イラン国内においては未だに貴重であり、これを現地の学会にて発表したことは現地の住民参加型まちづくりの構築に大きく貢献したと言える。また、日本-イラン間での協力体制がほぼなかった状況から、本研究を通じて、国際シンポジウムや展覧会を開催、調査レポート提出等を通じ、広く両国間の研究協力体制が強化されたことも特筆すべき成果である。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the urban revitalization projects which have been implemented in Iranian historic cities in recent years. This research evaluates the revitalization project near Masjed-e Jame; in the buffer zone of World Heritage Site, Masjed-e Jame of Isfahan, from multiple points of view of "Preservation of Authenticity as a World Heritage Site" and "Regeneration of degraded area" by referring international charters and information on the project from the implementation body, but also "Intention of local stakeholders" collected by interview surveys with the shopkeepers in this project area. It clarifies the effectiveness "Intention of local stakeholders" for the appropriate revitalization project in the historic core area in Iran.

研究分野：都市計画

キーワード：イラン エスファハーン 歴史都市景観 都市再生

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初、都市発展の目覚ましい現代イランにおいて、新たに、道路・都市計画省が主導する歴史都市内市街地の再興プロジェクト(計画および事業)がエスファハーン、タブリーズ、シラズ等で大規模に実施されていたが、日本におけるイラン都市研究実績が近年乏しく、海外論文としても報告はわずかであった。

(2) イランでの調査実施は政情不安からもハードルが高く、さらに計画による事業が現在進行形で実施されていることから再興計画の評価は定まっていない状況にあった。

(3) エスファハーンの世界遺産マスジェデ・ジャーム周辺における再興計画は、世界遺産リスト記載時より注目されていた。記載後も世界遺産委員会の中で保全状況に関する報告(SOC)が続けられており、再興計画が歴史都市の世界遺産としての真正性に影響を与えたか否かという観点から国内外の研究者によって評価する必要があった。

(4) UNESCOがHUL(歴史的都市景観)の理念として掲げる「生きている都市」を実現しながら、将来の動的な都市景観の制御を行なうためには「住宅の形態変容」と利害関係者となるバッファゾーン内の「地区住民の意向」を考慮に入れることが不可欠であると考えられた。

5) イランでは、住民意向を反映させながら進める計画作成事例の実績は少なく、住民意向に着目した調査が求められる状況にあった。

2. 研究の目的

当該研究は、近年大きく変容しつつあるイランの歴史的都市景観を適切に制御するため、文化遺産としての「真正性」および「住民意向」を尊重した都市再興計画のあり方を検討するものである。そのため、(1)イランの歴史的都市景観の保護制度を「都市計画」および「文化遺産」の両側面から明らかにし、(2)イランを代表する世界遺産歴史都市エスファハーンのマスジェデ・ジャーム周辺の保護区域を対象として、国際的な保護理念と地区住民の評価から、歴史的市街地の再興計画を評価し、最後に(3)「計画による都市改造」と「地区住民所有建造物の自律的な形態変容」の2つの変容プロセスを重ね合わせ、世界遺産バッファゾーン内の歴史的都市景観を継承するための計画指標を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

当該研究は、エスファハーンの世界遺産マスジェデ・ジャーム周辺のバッファゾーンを主対象としながら、他のイラン国内の歴史都市の再興計画と比較するため同じく世界遺産都市であるシラズ、タブリーズ、マシュハド、カーヴィーン他においても現地調査を実施した。

(1) 情報収集および翻訳を通じた研究対象歴史都市に関する情報整理

研究対象とする都市再興計画の実施された歴史都市についての情報整理、および都市再興プロジェクトの成果について主に文献および論文から分析した。取得したペルシャ語資料の主要な文献については適宜英文への翻訳を行った。また対象都市(エスファハーン)についてはUNESCOおよびイラン文化遺産・手工芸・観光庁のレポートを元に両者の再興計画に関する見解の違いを整理した。

(2) 現地調査およびインタビューを通じた都市再興計画の比較分析

イラン道路・都市計画省主導による歴史都市中心市街地の再興計画実施都市の中からタブリーズ、シラズ、マシュハド、カーヴィーンを対象に、各地の現地研究者や国及び行政職員へのインタビューを行い、再興計画実施前後の歴史都市への影響を分析した。

(3) 都市再興計画に対する住民へのインタビュー調査

調査対象地区であるマスジャデ・ジャーメ中心地区において、目視等による空間分析を実施した上で、通訳として協力を依頼したエスファハーン大学の学生と共に現地商店主や住民へのインタビュー調査を行い、歴史都市再興計画による評価について調査を行った。

4 . 研究の成果

本研究の成果として下記が挙げられる。

(1) 文献調査等、現地行政へのインタビュー調査により、調査対象地区の計画実施の背景を明らかにし、対象地区の再興計画では文化遺産としての「真正性」が十分に担保されなかったことを明らかにした。

(2) 対象街区内の店主へのインタビュー調査により、計画実施側（行政）と使用者である店主との間での計画に対する評価の差を示し、住民意向が反映されずに計画が実施されたことを明らかにした。

(3) 計画に対する再開発従前従後における店主の評価の変化を調査し、計画実施手法によって再興計画の改善が可能であることを示し、イランにおける住民意向調査調査の有効性を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山田大樹	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 アティーク広場（エスファハーン）再興計画の評価-地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年度日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 241-242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山田大樹	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 世界遺産マスジェデジャーメ（エスファハーン）周辺地区の再興計画の背景と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 2017年度日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 697-698
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山内和也、山田大樹	4. 巻 平成27年度
2. 論文標題 イランの建築と文化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 武庫川女子大学トルコ文化研究センター研究会 講演録	6. 最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 山田大樹
2. 発表標題 エスファハーンにおける世界遺産の現状と課題
3. 学会等名 中世建築研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 HIROKI YAMADA
2. 発表標題 Evaluation of the Atiq Square Revitalization Project in Isfahan: Based on interview survey to shopkeepers
3. 学会等名 The 10th International Conference on urban growth & conservation in Euro-Asia corridor Tabriz, Iran (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HIROKI YAMADA
2. 発表標題 Evaluation of the Revitalization Project of Atiq Aquare in Isfahan: Based on the Interview Survey to Shopkeepers
3. 学会等名 The 10th International Policy Forum for Urban Growth and Conservation (招待講演)
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 山田大樹
2. 発表標題 アティーク広場(エスファハーン)再興計画の評価-地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して-
3. 学会等名 建築学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田大樹
2. 発表標題 イランの広場-エスファハーンのナクシェ・ジャハーン広場とアティーク広場を例として-
3. 学会等名 中東の公共空間に関する研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田大樹
2. 発表標題 世界遺産マスジェド・ジャーメ(エスファハーン)周辺地区の再興計画の背景と課題
3. 学会等名 日本建築学会大会(中国)学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hi roki Yamada
2. 発表標題 Evaluation of the Atiq Square Revitalization Project in Isfahan : According to the interview survey to shopkeepers in the project area
3. 学会等名 International Policy Forum:On urban growth and conservation in euro-asian corridor / the silk road (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山田大樹他多数	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 (準備中)
3. 書名 中東・オリエント文化辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>その他の成果として下記を挙げる。</p> <p>国際シンポジウムの開催 イラン及び日本の歴史都市の変遷及び文化遺産の保全に関するシンポジウム『変容する「都」 4+2 ~ 古代ペルシャから現代東京まで~』を2018年 3月5日に建築会館ホールにてモデレーターとして開催した。併せて2週間同館ギャラリーにて展示会を開催し、キュレーターとして同テーマに関するパネルや模型を展示した。シンポジウムにおいては、イランの歴史都市に関わる行政関係者、文化遺産保護実務者、学術専門家を招聘し、模型や都市資料を集め、日本とイランの歴史都市を重層的に比較した研究会となったとともに、広く一般の方にもイランの歴史都市の成り立ちについて理解を深めていただく機会を提供できた。これは研究開始時には想定していなかった大きな成果である。</p> <p>歴史都市研究における関係構築 イランの現地歴史都市調査においては、各地のイラン文化遺産・手工芸・観光庁、行政より協力をいただいた。それに対し調査後には日本とイランの比較事例等を併記しながら視察レポートを作成し、現地の文化遺産保護体制に寄与した。また、調査協力研究団体および大学(エスファハーン大学、タブリーズ・イスラム芸術大学等)で講義を行うなど幅広い関係構築が達成できた。</p> <p>海外における研究発表 ロシア・サマラおよびイラン・タブリーズにて研究成果を発表した。タブリーズにおける発表論文については、イラン国内にて実績の少ない住民参加型まちづくりの研究に寄与するものとなり、イラン国内での研究論文集に掲載が予定されている。</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	ヘジャージー メフルダード (Hejazi Mehrdad)		